

分担研究報告書

「当院における重度嗅覚障害を呈するパーキンソン病を対象とした ドネペジルの予後改善効果に関する研究」

研究分担者：村田美穂¹⁾

研究協力者：塚本 忠¹⁾

1) 国立精神・神経医療研究センター病院神経内科

研究要旨 重度嗅覚障害を呈するパーキンソン病患者が認知機能障害をおこしうるとい
先行研究にのっとり、ドネペジルによる予後改善効果を明らかにするための多施設共同研
究をおこなった。スクリーニングはすでに診療で行っていた T&T オルファクトメトリーを
用い、これと OSIT-J との結果を比較することができた。T&T の嗅覚度 4 以上が OSIT-J
の 4 点以下に相当した。当院では今年度 2 症例参加した。

A：研究目的

重度嗅覚障害を呈するパーキンソン病患者が
認知機能障害をおこしうるとい先行研究に
のっとり、ドネペジルによる予後改善効果を
明らかにする。

B：研究方法

ランダム化二重盲検試験の多施設共同研究
（倫理面への配慮）当センター倫理委員会の
承認を得て行っている。

C：研究結果

当院では今年度 2 症例が参加した。
これまで、嗅覚障害は診療目的で T&T オル
ファクトメーターを用いて評価していた。今
回、本研究のために、OSIT-J にて再検したと
ころ、OSIT-J の 4 点以下は T&T の嗅覚度 4
以上に相当し、斉藤ら（日本味と匂学会誌
2001;8:143-149）の先行研究の結果を裏付け
る結果を得た。パーキンソン病患者では嗅覚
低下は 90%以上に認めるが、中等度程度が多

く、OSIT-J で 4 点以下（T&T 嗅覚度 4 以上）
は 20%程度で、さらにこのうち MMSE26 点
以上は 10%程度であった。
本研究には今年度 2 症例が参加した。

D：考察

患者の 10%程度が候補になると思われたが、
実際には 2 例のみの参加となった。

E：結論

今後この研究を適切に進める。

F：健康危険情報 なし

G：研究発表

（発表雑誌名、巻号、頁、発行年なども記入）

1：論文発表 なし

2：学会発表 なし

H：知的所有権の取得状況 なし